

エビー・ニールセン賞受賞者決定

エビー・ニールセン賞は、GBIFが毎年授与している誉れある賞ですが、2013年には、生物分布パターンのプロセスを解明する大規模実験を考案したポルトガル人科学者Miguel Bastos Araújo (ミゲル・バストス・アラウホ) 氏が受賞しました。

アラウホ氏は、賞金3万ユーロを使って生態系実験施設（エコトロン）を設立する予定です。この施設は、各地における種の組み合わせパターンが環境変化によってどのように変化するかを予測するものであり、環境保護に関する政策決定に役立てることを目標としています。



アラウホ氏は、スペイン科学研究高等会議傘下国立自然科学博物館で研究者として勤務する傍ら、ポルトガルのエボラ大学及びデンマークのコペンハーゲン大学の客員教授を務めています。

GBIF科学委員会は、加盟国から寄せられた推薦者リストから、アラウホ氏が生物多様性情報技術を活用して環境現象をモデル化し、予測する画期的な研究を行っていることを見出しました。氏の研究では、特に、さまざまな気候変動シナリオが地域や地

球全体の生物多様性パターンに及ぼす影響に焦点が当てられています。

アラウホ氏は、GBIFのウェブサイトコメントを寄せて、生物学者に対して「大きく考える」重要性を語ると共に、地球上の生命に関する重大な問題に対処するために、大規模研究に参加するよう奨めています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。

アラウホ氏のインタビューは、[こちらから](#)お聞きになれます。

科学委員会は、2013年GBIF若手研究者賞の受賞者の発表も行いました。詳細は、2ページをご覧ください。

科学と政策 2

若手研究者賞の受賞者発表

『GBits Science Supplement』最新号

GBIF加盟国の動勢 2

イスラエルGBIFに参加

インフォマティクス 3

IPT v2.0.5を公表

GBIFネットワーク内外の活動 3

- ・ 生物多様性データシステムを新規公開
—アメリカ

- ・ アリ類を表示する新ポータルマップ
—ベルギー

- ・ 生物種データペーパーの第一号が出版
—スペイン

- ・ 「国際生物多様性の日」にちなんでバイオブリッツ開催

- ・ 2012年度GBIF年次報告書及び科学レビュー報告書

- ・ アルバーティーン地溝の生物多様性に関するポータルサイトが新設

- ・ OpenUp!のデータが100万点を超える

地域協力プロジェクト 4

- ・ アフリカノード

データ活用及び研究の優先順位を決定

- ・ ラテンアメリカ諸国

データ利用と情報技術を強化

- ・ ワークショップで東アジアのチェックリストを調査

新規データ 5

GBIFデータの活用 6

マップ・オブ・ライフ 全種類のGBIF

データが使用可能に

ニュースから 7

今後のイベント予定 7

科学と政策

若手研究者賞の受賞者発表

GBIF科学委員会は、若手研究者賞（賞金4千ユーロ）の受賞者2名を発表しました。この賞は、GBIFネットワーク加盟国の大学で研究を行っている大学院生の研究発見を奨励するものです。

アメリカテキサスA&M大学の博士課程で学んでいるメキシコ人エマ・ゴメス＝ルイス (Emma Gomez-Ruiz) 氏は、GBIFが提供するデータを用いたモデルによって、ハナナガコウモリ (*Leptonycteris nivalis*) の移動経路である「花蜜回廊 (nectar corridor)」の地図作製を目指しています。花蜜食コウモリは、リュウゼツランの開花を追って中央メキシコからアメリカ南部に移動し、一部の植物種にとっては重要な花粉媒介者として機能します。ゴメス＝ルイス氏は、気候変動の影響も含め、この回廊に対する理解を深めて、種の保存に役立てたいと願っています。



スウェーデンのストックホルム大学の修士課程に学ぶフランス人ナタン・ラン(Nathan Ranc)氏は、GBIFネットワークにより入手した地中海地域に棲息する269種類のほ乳動物のデータを比較することにより、GBIFが提供するデータにおけるバイアスを評価します。ラン氏の研究は、イタリアにあるローマ大学サピエンツァ校との連携により行われ、データが乏しい種や地域を特定することにより、データ活用方策の策定に役立ちます。



『GBits Science Supplement』最新号

通常通り当ニュースレターと共に『GBits Science Supplement』最新号が発行されました。今号で紹介されている論文には、『Nature Climate Change』誌に掲載された注目度の高い研究があり、GBIFが提供する生物多様性データを用いて、気候変動に伴い数千の動植物種の棲息範囲が減少する程度を予測する研究が紹介されています。この研究は、世界中のメディアで報じられ、GBIFウェブサイトにあるニュースのコーナーでも取り上げられています。

更に『GBits Science Supplement』最新号では、イギリスにおける外来危険水生動物に関する研究、ブラジル季節乾燥林における保護区域の有効性に関する研究、生態系機能保全における希少種保護の重要性に関する研究などが紹介されています。

『GBits Science Supplement』最新号のダウンロードは、[こちら](#)から。

GBIF加盟国の動勢

イスラエルGBIFに参加

イスラエルがGBIFに加盟しました。

イスラエル自然・公園庁 (INPA) のシャウル・ゴールドスタイン (Shaul Goldstein) 長官は、GBIF覚書 (MoU) に署名し、これにより、イスラエルから生物多様性データに自由にアクセスし、研究や政策決定に活用することが可能になりました。

この発表に際して、INPAの主任研究員であるイエホシュア・シュケディー (Yehoshua Shkedy) 氏は、次のように述べています。「今回の調印によって、生物多様性の保全や管理に向けた世界的取り組みに、イスラエルが参加できる道が拓かれました。イスラエルでは、博物館による標本収集や生態学的研究など、生物多様性に関し多様な科学的活動が展開されていますが、今回イスラエルがGBIFに正式参加したことにより、生物多様性データのアクセスや活用が促進され、自然保護に向けた国際協力や研究がもっと進展するものと思います。」

イスラエルでは、[BioGIS \(イスラエル生物多様性ウェブサイト\)](#) を既に立ち上げており、生物多様性データのアクセス連携に向けた取り組みを開始しています。このサイトは、多くの研究機関の生物多様性データを統合するものです。また、このサイトには、生物種の分布パターンを検索、分析、モデル化、画像化することができるツールも備えられています。

イスラエルは、先ずGBIFに準参加国として加盟した後、5年以内に決議権を有する参加国となることを検討しています。

詳細については[こちら](#)をご覧ください。



GBIF加盟国に関する他の変更点として、アンドラ公国が準参加国から決議権を有する参加国となりました。

インフォマティクス

IPT v2.0.5を公表

GBIFインテグレートド・パブリッシング・ツールキット (IPT) の最新版が公開されました。改善点として、ポルトガル語版が出たこと、自動公開用にデータ設定を行う機能が追加されたこと、カスタマイズが容易になったこと、バグを数カ所修正したことが挙げられます。詳細については、[開発者のブログ](#)をご覧ください。

IPTをポルトガル語に翻訳する作業は、ブラジルにあるサンパウロ大学[生物多様性・コンピューティング研究センター](#)のボランティアが担当してくださりました。

GBIFネットワーク内外の活動

生物多様性データシステムを新規公開ーアメリカ

アメリカのGBIFノードであるアメリカ地質調査所 (USGS) は、1億件を超えるデータにアクセスできるポータルサイトを新規に開始しました。このデータベースには、国内に棲息する殆ど全ての生物種が網羅されています。

[BISON \(Biodiversity Information Serving Our Nation\)](#) と称するポータルサイトにあるデータの大部分及び関連するウェブサービスは、グローバルなGBIFネットワークを介してデータを公表している研究機関によるものです。

このサイトには、対話形式のマップがあり、ユーザは生物の棲息記録を目で確認することができる他、50を超えるレイヤー機能によって環境情報が追加表示できます。

アリ類を表示する新ポータルマップーベルギー

ベルギーのGBIFノードである[ベルギー生物多様性プラットフォーム](#)では、新たにデジタルマップを公開しました。このマップでは、ベルギーに棲息するアリ類の分布を表示することができます。

ポータルサイトから「[Formidabel \(Formicidae Database Belgium\)](#)」と呼ばれるデータベースにアクセスします。このデータベースには76種類の在来種及び9種類の外来種のアリに関する27,000件を超えるデータが蓄積されています。データ提供元は、野外調査、博物館コレクション及び文献となっています。データの中で最も古いものは1866年5月、最新は2012年8月です。

Formidabelは、ベルギー生物多様性プラットフォームに加えて、フランドル及びワロン地方のアリ類に関する2つの研究グループが共同開発を行いました。この[マップのデータ](#)はGBIFに公開されており、[『ZooKeys』誌にもデータ論文](#)として発表されています。

生物種データペーパーの第一号が出版ースペイン

スペインのオビエド大学で収集された[トンボ目\(イトトンボ亜目及びトンボ亜目\)のコレクションについて解説した査読データペーパー](#)が、『ZooKeys』誌から出版されました。

この論文は、GBIFスペインが3月にマドリッドで開催したデータペーパー作成ワークショップにより作成されたものです。このワークショップには、GBIFをとおしてデータ公開を行っている研究所から21名の参加者が出席し、このワークショップにより作成された他のデータ論文については、現在、推敲や査読が行われています。

このワークショップは、GBIFコアファンドによる経済的支援が行われた[3件のプロジェクト](#)の一つであり、コアファンドの活用によって、詳細なデータセットの解説(メタデータ)の作成を促進すると共に、データ論文として学術誌から出版するための支援が行われています。

ワークショップの詳細については、[こちら](#)から。

「国際生物多様性の日」にちなんでバイオブリッツ開催

2013年の国際生物多様性の日にちなんで、各地のGBIFナショナルノードが企画したバイオブリッツが開催されました。2000年の国連総会において、毎年5月22日が生物多様性に関わる諸問題に対する意識を高める日と定められています。

バイオブリッツは、科学者や地域の人々が指定された場所に集まって、決められた時間内(通常は24時間)に、できるだけ多くの生物種を記録する催しです。バイオブリッツの結果は、GBIFネットワークなどインターネットを介して一般に公開されます。

アイルランドー5月25日に、260名を超える参加者が国立生物多様性データセンター(NBDC)主催による毎年恒例のバイオブリッツに集いました。今年は、アイルランド共和国と北アイルランドから4箇所が選ばれ、生物種の多さを競うゲーム形式で行われました。フェルマナ州にある個人所有地コールブルック・エステートでは、24時間内に1086種が記録され、優勝しました。バイオブリッツの様子は、一部国営テレビチャンネルRTÉ Oneでも放送されました。アイルランドの2013年バイオブリッツに関する詳細は、[こちら](#)から。

コスタリカ

5月26～27日にインビオ公園(INBioparque)で開かれたバイオブリッツに236名の参加者がいました。この施設は、首都サンホセ近郊にある生態公園で、GBIFナショナルノードであるINBioが所有しています。バイオブリッツでは、これまで公園で発見されることがない17種類の昆虫が発見され、その内訳は、甲虫目が7種類、双翅目(ハエやカ)が4種類、トコジラミ類が3種類、鱗翅目(チョウ)、脈翅目(ウスバカゲロウ)及びトンボが各1種でした。

デンマークーデンマーク生物多様性情報機構 (DanBIF) は、コペンハーゲン大学自然史博物館と協力して、首都コペンハーゲンにある [オスター公園にて5月17日にバイオブリッツを開催](#) しました。このイベントには約200名の生徒と28名の動植物専門家が参加し、1日で357種類が記録されました。

アルバーティーン地溝の生物多様性に関するポータルサイトが新設

アルバーティーン地溝生物多様性監視情報システム (ARBMIS) は、東部アフリカにあるこの地帯で認められる特殊な生物多様性情報を提供する [ポータルサイトを新規に開設](#) しました。GBIFの準参加機関であるアルバーティーン地溝帯保全協会 (ARCOS) は、当地域で活動している他団体と協力して、[JRS生物多様性機構](#)の援助によりポータルサイトを開設しました。

アルバーティーン地溝は、山岳生物多様性ホットスポットの一部であり、ルワンダ、ブルンジ、ウガンダ、タンザニア及びコンゴ共和国にまたがっています。この地域の山はもともと火山性であり、マウンテンゴリラの棲息地として有名なビルンガ国立公園があります。

詳細については [こちら](#) をご覧ください。

OpenUp! のデータが 100万点を超える

欧州連合 (EU) のプロジェクトである [OpenUp!](#) は、運用開始から2年が経過し、デジタル図書館・博物館である [Europeana](#) から [100万点を超えるマルチメディア資料](#) がアクセス可能になっています。資料には、高画質の写真、ビデオ、録音ファイルや自然史アートなどがあります。

その他にも、ハンドブック、ビデオ、スライドなど300点を越える資料の他、生物多様性情報やデジタルライブラリーに [関連した資料](#) が作成されています。

OpenUp! は、EUが資金提供を行い、GBIFノードが協力するプロジェクトの一つです。ドイツのGBIFナショナルノードであるベルリン・ダーレム植物園・植物博物館 (BGBM) が、このプロジェクトを主導しています。

最近のニュースやコンテンツ紹介は、[Open-Upのブログ](#) から見るすることができます。

地域協力プロジェクト

アフリカノード データ活用及び研究の優先順位を決定

アフリカのGBIFナショナルノードは、アフリカ地域におけるデータ活用及び研究に関する主要テーマとして、外来種、地域固有種、海洋データ、遺伝子組み換え生物 (GMO) 及び薬草を特定しました。

プレトリアで4月に開催された地域会合には、アフリカのGBIFナショナルノード及び国際機関から12団体が集まり、優先順位について討議しました。アンゴラやナミビアは、まだGBIFに加盟していませんが、戦略的パートナーとして会議に参加しました。

アフリカのナショナルノードは、データと科学との連携を目指して、外来種に関する地域プロジェクトを検討する作業グループを設置しました。GBIFナショナルノードである [南アフリカ国立生物多様性研究所 \(SANBI\)](#) は、[JRS生物多様性基金](#) の支援により地域コーディネーターを任命します。その職務は、南部アフリカ地域及びGBIFノードに対して『生物多様性データ評価及びアクションプラン』を作成することです。

2012年度GBIF年次報告書及び科学レビュー報告書

GBIFは、2012年度年次報告書を公表しました。今回初めての試みとして、年次科学レビュー報告書も併せて公表しました。この報告書には、GBIFが提供するデータを利用して2012年中に出版された230件の査読論文に関する解説があります。両報告書ともオンラインから入手することができる他、希望に応じて印刷版も入手可能です。

2012年度年次報告書のダウンロードは [こちら](#) から。

2012年度科学レビュー報告書のダウンロードは [こちら](#) から。





ラテンアメリカ諸国 データ利用と情報技術を強化

スペイン、コスタリカ及びメキシコのGBIFナショナルノードは、4月にワークショップを共催し、ラテンアメリカにおける生物多様性保全に向けた取り組みとして、データ利用と情報技術の強化を図りました。

この5日間訓練コースは、コスタリカのプエルト・ビエホ・デ・サラピキにあるラ・セルバ生物保護区 (Estacion Biologica La Selva) で開催され、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、コスタリカ、メキシコ、ニカラグア、ベネズエラ及びスペインの計9ヶ国から31名の参加者が集いました。

このワークショップは、GBIFの準参加団体である [イペロアメリカ科学技術開発プログラム \(CYTED\)](#) の支援により実施されました。このワークショップは、「[イペロアメリカ生物多様性情報インフラストラクチャー](#)」 (I3B) が開催する第2番目の地域セミナーとして開催され、2014年はメキシコで、2015年はブラジルで開催が予定されています。

ワークショップの詳細については、[こちら](#)から。

ワークショップで東アジアのチェックリストを調査

3月に日本で開催されたワークショップには、日本、韓国及び台湾のGBIFノードマネージャーを始めとして研究者が集い、東アジア及び南東アジアにおける絶滅危惧種 (レッドリスト)、外来種その他のチェックリストを精査し、データが不足している分野を確認しました。当該地域からGBIFに対して情報を提供する際の標準データや公表方法のオプションについても、検討が行われました。

このワークショップは、アジアノード間でチェックリストのデータ共有を推進する協力事業の一環として企画され、茨城県にある国立科学博物館で開催されました。当博物館は、日本におけるGBIFナショナルノードです。

新規データ

カナダ

カナダのトロントにある [王立オンタリオ博物館](#) は、収集標本から30万件を超える鳥類、[両生類](#)、[は虫類](#) 及び [ほ乳類](#) のデータを公開しました

(<http://data.gbif.org/datasets/resource/14791>,
<http://data.gbif.org/datasets/resource/14794>) 。

当博物館には、鳥類学者ジェームズ・ヘンリー・フレミングによるコレクションを始めとして、歴史的にも重要な標本が保管されており、フレミングのコレクションは、北米における個人による鳥類コレクションとして最大級と評価されていました。この博物館の所蔵品には、ホオダレムクドリ、ラブラドル・ダック、オオウミガラス、カロライナインコの他132種類のリョコウバト等の絶滅種の剥製があります。その他、ハワイミツスイやダーウィンフィンチ等絶滅危惧種の剥製も所蔵されています。

アメリカ

[ジョージア南大学](#) 及びテキサス州ダラスにある [ペロー自然科学博物館](#) は、GBIFをとおりてデータを新たに公開しました。

ジョージア南大学が [公開したデータ](#) は、サバンナ科学博物館所蔵のは虫類コレクションに関するものです。このコレクションには、35,000件の標本があり、ジョージア州に棲息するは虫類及び両生類の95%をカバーしています。

ペロー博物館は、ダラス自然史博物館が1930年代に開設したもので、アメリカ南部の古生物学から最近の動物学データに至るまで [広範なデータ](#) を公開しました。

両データともに、アメリカの国立科学財団 (NSF) の資金提供により設立された [VertNet](#) により公開されています。

コロンビア

コロンビアから最近公開された約90,000件のデータには、コーヒー園に棲息する [植物](#)、[鳥類](#) 及び [アリ類](#) に関するものが含まれています。[コロンビア全国コーヒー生産者連盟](#) では、コーヒー農園に生物多様性を取り入れる事業の一環として、調査データを公開しました。

コロンビアから最近公開されたその他のデータとして、マグダレナ川流域の漁民を対象とした [湿地回復事業において調査した植物](#) や、アマゾン科学研究所 (SINCHI) にある [コロンビア・アマゾン植物標本集に収録された標本](#) に関するものがあります。

ベネズエラ

ベネズエラのカラカスで管理されているコレクションのうち、南部及び中央アメリカの昆虫およそ1000種類をカバーするデータがGBIFポータルからアクセスできます。ベネズエラは現在GBIFのメンバーではありませんが、[ベネズエラ中央大学](#) では、[農業動物研究所博物館 \(MIZA\)](#) に保管する [27,500件の昆虫データ](#) を、GBIF準参加機関である米大陸間生物多様性情報ネットワーク (IABIN) の承認の元で公開しています。

ニカラグア

ニカラグアにある個人コレクションである[レオン昆虫博物館](#)は、中央アメリカを始めとして世界中の[昆虫に関する126,500件のデータ](#)を公開しています。ニカラグアは、現在GBIFの加盟国ではないものの、GBIFの準参加機関である[イペロアメリカ科学技術開発プログラム \(CYTED\)](#) の承認によりデータが公開されています。

ドイツ

[ベルリン自然史博物館 \(MfN\)](#) では、世界中の海洋プランクトン化石に関し、[500,000件を超えるデータ](#)を公開しました。このデータの出处は、ネブチューン深海微化石データベースと呼ばれ、3大海洋掘削事業により数十年かけて収集した堆積物コアに関するデータを統合するデータベースです。

その他にも、[ベルリン自由大学](#)から化石データが公開されていますが、こちらは、教育や研究用に収集した古生物コレクションのデータのうち[6000件を公表](#)しています。

ドイツにおける[ムシヒキアブ \(Asilidae\) の分布地図](#)が、フランクフルトにあるゼンケンベルグ自然博物館により[新たに公開](#)されました。このデータセットには、ドイツで確認された81種類全てに関するデータを始めとして、約15,000件のデータが保存されています。

オーストリア

オーストリアのインスブルックにある[チロル州立フェルディナンドゥム博物館](#)は、オーストリア、ドイツ、イタリア及びスロベニアで発見されたガヤチョウに関する[100,000件近いデータ](#)を公開しています。

フランス

GBIFフランスノードである[国立自然史博物館 \(MNHN\)](#) では、国内の淡水魚調査により得られた[54,300件のデータ](#)を公開しました。この調査は、フランス国内における淡水魚の分布データを収集し、分布地図を改訂することを目的としています。

オランダ

アムステルダム大学の[生物多様性生態系力学研究所 \(IBED\)](#) は、アンデス山脈のツンドラ地帯に対して40年間実施した調査により収集した植物データを公開しました。この研究所では、ベネズエラ、コロンビア、ペルー及びエクアドルにまたがるパラモ生態系に1970年以降研究者を派遣し、集積したほぼ[45,000件のデータ](#)からなる[15のデータセット](#)を公表しています。

オランダから新規に公開されたその他のデータには、[ロッテルダム自然史博物館](#)から公開されたデータセットがあり、このデータセットには、国内に棲息する400種を超えるガに関し1964年から収集した[135,000件を超える観察記録](#)が蓄積されています。

スペイン

GBIFスペインは、283,000件のデータを収載した10データセットを公開しました。その一つは、[スペイン海洋研究所](#)が作成したもので、モーリタニア海岸沖の深度100~2000メートルで捕獲した魚類データが収載されています。このデータセットには、71科150種を超えるデータが収載されています。

GBIFスペインが公開したその他のデータとしては、[バルセロナ自然史博物館](#)所蔵の5植物標本集に収録されている植物データ、[甲殻類データ](#)及び[古生物コレクションデータ](#)があります。

日本

[国立遺伝学研究所](#)は、日本に棲息するオサムシのデータベースから[32,600件のデータ](#)を公開しました。

韓国

韓国からおよそ100万件の新規データが公開されました。データには、韓国生物資源センターが作成した[緑藻類のデータセット](#)の他、韓国山林庁が作成した3種類のデータセットがあり、このデータセットは、[鳥類](#)、[植物](#)及び韓国最大の昆虫データベース収載の[約360,000件のデータ](#)が含まれています。

GBIFデータの活用

マップ・オブ・ライフ 全種類のGBIFデータが使用可能に

[マップ・オブ・ライフ・プロジェクト](#)では、ポータルサイトを更新し、GBIFが提供する全地理参照データを表示できるようにしました。アメリカで始まったこのプロジェクトは、種の分布に関する世界規模の知識を集約することを目的としていますが、これまではほ乳類データしか扱っていませんでした。

ポータルの改善点については、[こちら](#)をご覧ください。



ニュースから

GBIFの活動が、BBCワールドサービス5月放送のラジオ番組「サイエンス・イン・アクション」で取り上げられました。

[こちら](#)からお聞きになれます。

『ファイナンシャル・タイムズ』の特別記事に、コロンビアの生物多様性に関する報告があり、GBIFナショナルノードであるSiBコロンビアが提供する情報が引用されています。

記事は、[こちら](#)から読むことができます。

ライン川、モーゼル川、ザール川とミューズ川に囲まれた[拡大地域における生物多様性データを扱うポータルサイト](#)が、ドイツのトリーアで5月23日に開かれた記者会見で発表されました。このポータルサイトによって、この地域に棲息する300種類を超える動植物の分布情報を知ることができます。

ポータルサイトに関する詳細については、GBIFベルギーのAndré Heughebaert氏まで連絡してください (a.heughebaert@biodiversity.be)。

今後のイベント予定

会議とワークショップ

DNAバーコード及びインフォマティクスによる数計処理に関するウェビナー

2013年7月10～11日、オンラインにて公開

フィジーのスパで開催される第12回太平洋学術中間会議の一環として開催

詳細は、[こちら](#)。

トレーニングセミナー

メタデータの使用及びデータペーパー発表の推進に関するGBIFインド主催ワークショップ

2013年6月19～21日、インド、ブネ

詳細は、[こちら](#)。

VertNet第2回生物多様性インフォマティクストレーニングワークショップ

2013年6月24～28日、アメリカ、ボールドー

詳細は、[こちら](#)。

生物分布のモデル化及び分布図作成に関する夏期コース

2013年7月1～4日、オランダ、アムステルダム

詳細は、[こちら](#)。

生物多様性インフォマティクス機関設立セミナー

2013年7月23～26日、南アフリカ、ケープタウン

詳細は、[こちら](#)。

生物多様性インフォマティクスデータ解析トレーニングコース

2013年7月29日～8月2日、南アフリカ、ケープタウン

詳細は、[こちら](#)。

GBIFのVision: 科学、社会及び持続可能な未来のために、生物多様性情報が全域で自由に利用可能な世界の実現を目指します。

GBIF 本部

Universitetsparken 15
DK-2100 Copenhagen Ø
Denmark
<http://www.gbif.org/>

GBIFのMission: 生物多様性情報を提供する世界随一の情報発信源となると共に、環境と人類の福祉に役立つ賢明な解決策を提供することを目指します。

電話: +45 35 32 14 70

Fax: +45 35 32 14 80

E-mail: info@gbif.org

過去のGBits ニュースレター・アーカイブ:

<http://www.gbif.org/communications/resources/newsletters/>